

大林道路 事業所の感染対策強化 紫外線光源装置を導入

大林道路は、事業所内での「として、殺菌・ウイルス不活性化能力を持つ紫外線光源装置



「Care222（ケアトゥトゥ）」を導入している。写真。米
国コロナビ

大学の特許技術を使ってウシオ電機が開発した装置で、感染者数の多い都市部の営業所や合材工場などから導入を進めている。

同装置は、遠紫外線（UVC-222nm）を主な波長とするエキシマランプと、人体に無害な波長域のみに制限する光学バンドパスフィルターを組み合わせるコロナビア大の特許を利用し、人や動物の肌、目に悪影響を及ぼすことがない人体にやさしい紫外線波長域だけを照射できる。インフルエンザウイルス、エボラウイルス、O-157大腸菌や新型コロナウイルスを含む、ほぼすべてのウイルスや細菌の不活性化効果があることが確認されており、設置や費用の負担も大きくない。

大林道路は、新型コロナウイルスの感染が拡大し始めた2020年3月ごろから検温やアルコール除菌、テレワーク推進などの感染防止対策を実施している。その上で、いまだ感染が収束しない状況を踏まえ、従業員の健康管理を第一に考え、20年11月から同装置の導入を始めた。

設置した事業所の1つである、札幌市の「北区南地区除雪センター」の従業員からは「機器のウイルス不活性化・殺菌効果はもちろん、機器自体を設置したことで従業員の新型コロナウイルスに対する意識がより高まり、一人ひとりの基本的

な感染予防対策とあわせて相乗効果がある。おかげで、安心して安全に24時間体制で除雪業務に当たれている」といった声が寄せられている。

